

令和6年度 年間授業計画

田無工科高等学校

教科・科目	芸術科 書道 I		単位数	2
対象学年・組	1 学年全クラス	教科担任	MA:北島 MB:北島 AA:北島 AB:北島 CA:北島	
教科書	書道 I 東京書籍			
副教材	硬筆レッスン帳 教育図書			

教科 芸術科 の目的：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力】	【学びに向かう力、人間性等】
芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。	創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 書道 I の目的：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	時数
1 学期	オリエンテーション 書写から書道へ 【知識及び技能】書写と書道の違いを理解する。用具・用材を整える。 【思考力、判断力、表現力等】書へのいざないとして、表現と鑑賞を通して種々な書的美があることを認識する。 【学びに向かう力、人間性等】これから学習する書道に興味・関心を持つことができる。	・書写の確認 ・毛筆による表現と鑑賞 ・教科書、アンケート、書道用具、筆記用具、	(知) 書写と書道の違いを理解することができる。 (思) 今までの学習を生かして、意図に基づいた表現について構想し工夫している。 (主) 自身の作品の意図に基づく表現の学習活動に主体的に取り組みようとしている。	○	○	○	4
	漢字の書 楷書 【知識及び技能】書体の成立と変遷を知る。楷書の基本用筆を確認しながら、特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】書写で学んできた基礎的なポイントが捉えられている。 【学びに向かう力、人間性等】新しい内容を理解しようとする姿勢と提出物である課題に主体的に取り組んでいる。	・書体(成立と変遷) ・楷書(特徴・基本用筆) ・姿勢・執筆法・後かたづけの確認 ・教科書、書道用具 ・『硬筆レッスン帳』、筆記用具(ボールペン含む。)	(知) 書写の内容(楷書の特徴・用筆等)の確認と書体の成立と変遷について理解している。 (思) 書写で学んできた目的や用途に即した効果的な表現について構想し工夫している。 (学) 新しい内容を理解して、課題等主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	定期考査(なし)						
	漢字の書 楷書 臨書 【知識及び技能】古典とその臨書の意義を理解する。各々の古典の時代や文化的側面と書表現の特徴を理解し、表現する。 【思考力、判断力、表現力等】上記の知識及び技能を通して種々の表現方法を味わうとともに、毛筆が生み出す芸術性に触れる。 【学びに向かう力、人間性等】臨書学習を通して時代や文化的側面にも触れることで現代社会においても書の効用について考え、関心や興味を持てる。	・臨書について ・「九成宮醴泉銘」 ・「孔子廟堂碑」 ・「雁塔聖教序」 ・「自書告身」 教科書、書道用具 一人1台端末の活用	(知) 臨書の意味や語句を覚えている。臨書学習を定着させる。各々の古典の特徴を理解して表現する。 (思) 臨書を通して種々な書的美があることを理解している。 (主) 時代や文化的側面にも触れることで現代社会においても書の効用について考え、関心や興味を持てる。	○	○	○	10
漢字の書 楷書 創作(做書) 【知識及び技能】古典の特徴を理解し、自己の意図にあった表現ができる。 【思考力、判断力、表現力等】自分が表現したい書風をイメージすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】自己を開放して自己表現することへ意欲的に取り組める。	・古典を生かした創作(做書) 創作カードの作成 ・教科書、字典、書道用具(うちわ) ・一人1台端末の活用 等	(知) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書風と用筆との関わりについて理解し、作品の意図にあった表現ができる。 (思) 自分が表現したい書風をイメージし、古典の味わいを残しつつ表現の工夫をすることができる。 (学) 自己表現することへ主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6	
定期考査(なし)							

2 学 期	漢字の書 篆刻 【知識及び技能】篆刻の手順を把握し、用具の使い方、かたづけ方を学び、印を完成する。 【思考力、判断力、表現力等】篆書の特徴を理解して、方形にバランスよく構想している。 【学びに向かう力、人間性等】毛筆とは違う表現の学習に関心を持って取り組むことができる。	・手順と用具の使い方、かたづけ方 ・教科書、篆刻の用具・用材 ・一人1台端末の活用	(知) 篆刻の手順・用具の扱い方を覚え、印を完成している。 (思) 篆書の特徴を理解して方形にバランス良く構想を練ることができる。 (学) 毛筆とは違う表現の学習に関心を持って取り組むことができる。そして幅広い学習活動の体験を通して文化に親しむ。	○	○	○	12
	漢字の書 行書 【知識及び技能】行書の特徴を理解する。古典の内容や由来、書風、王羲之の人と書、時代背景などについて理解する。 変化豊かな表現を理解して行書用筆に慣れる。 【思考力、判断力、表現力等】古典の内容や由来に触れ、一連の内容を創造することができる。 【学びに向かう力、人間性等】変化豊かな行書用筆を学習することで、行書もしくは書道に一層興味を持たれた。	・行書の特徴 「蘭亭序」 硬筆 ・教科書、書道用具、 ・一人1台端末の活用 等 ・『硬筆レッスン帳』、筆記用具 (ボールペン含む)	(知) 行書の特徴や古典や作者の概要を理解して行書用筆に慣れる。 (思) 「蘭亭序」の内容や由来に触れ、一連の内容をイメージすることができる。豊かな表現の美を味わって捉えている。 (学) 変化豊かな行書用筆や臨書学習を通して書の美や文化に興味を持つ。	○	○	○	10
	定期考査 (なし)						
3 学 期	漢字の書 作品制作 (半紙2分の1) 【知識及び技能】半紙書きとは違い大書することで、臨書学習が違ふ視点で捉えられ、より学習効果をあげることができる。 【思考力、判断力、表現力等】作品制作のため、落款を含めたバランスも意識することができる。 【学びに向かう力、人間性等】大書することで、ダイナミックな運筆など毛筆表現の魅力を味わう。	・半切2分の1の書式について ・落款について ・教科書、書道用具 (半紙・半切2分の1) ・一人1台端末の活用 等	(知) 通常より大書することで、臨書学習がより一層の効果を上げることができる。 (思) 臨書だけでなく、落款を含めたバランスを意識して構想することができる。 (学) 楷書か行書か題材を自分で選択することで主体的に取り組んでいる。ダイナミックな運筆など毛筆表現の魅力を体験し、一層書道に興味を持ったり、心豊かな心情を味わうことができる。	○	○	○	6
	定期考査 (なし)						
	仮名の書 【知識及び技能】仮名の成立や用語等を理解する。仮名の用具・用筆・学習ポイントを覚えて、仮名用筆に慣れる。 【思考力、判断力、表現力等】散らし書きの構成を理解して、書や日本の美を味わう。 【学びに向かう力、人間性等】仮名の表現や日本の美を味わうとともに、日本文化を尊重する心情を育てる。	・成立について ・用具・基本用筆・仮名单体・変体仮名・連綿・散らし書きについて ・教科書・書道用具 ・一人1台端末の活用 等	(知) 仮名の成立や用語等を理解する。用具・用筆・学習ポイントを覚えて、仮名用筆に書き慣れる。 (思) 表現を意識して、仮名の書のよさや美しさを味わって捉えている。 (学) 練習を重ねることで、仮名表現を会得し、それによる達成感を味わうことでさらに主体的に取り組むことができる。	○	○	○	10
漢字仮名交じりの書 【知識及び技能】漢字と仮名の調和に留意して表現することができる。意図に即した表現を創意工夫することができる。 【思考力、判断力、表現力等】自分が表現したい作品の書風をイメージすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】自己を開放して表現することへ主体的に取り組むことができる。	・創作の手順について (創作カード) ・漢字と仮名の調和について ・教科書・書道用具 (色紙) ・顔 ・製本の具等の用材	(知) 漢字と仮名の調和に留意して表現することができる。 (思) 自分が表現したい書風をイメージすることができ、意図にあった表現の工夫ができる。 (学) 自己を開放して表現する創作において、表現する喜びを感じ意欲的に取り組んでいる。	○	○	○	6	
一年間のまとめ 【知識及び技能】折本という製本技術を覚える。 【思考力、判断力、表現力等】一年分の作品をまとめることで、鑑賞を通して発見や喜びを感じることができる。 【学びに向かう力、人間性等】日本文化に親しみ、心の豊かさを育むことができた。	・折本製本 ・教科書・書道用具・筆記用具・ 製本用具 (表紙・糊等)	(知) 製本技術を体験することができる。 (思) 種々の書のあることを発見でき、表現する喜びや作品をひとつにまとめ上げた達成感を味わうことができる。 (学) 日本文化に親しみ、一層の興味や関心が心豊かな心情を育んでいる。	○	○	○	2	
定期考査 (なし)						合計	
						70	